

ILL業務に携わる日々

戸田奈緒子

ILLという言葉をご存じでしょうか。初めて聞く、という方も少なくないでしょう。ILLとは、「図書館間相互貸借」の英訳=Interlibrary Loanの頭文字を取った略称です。このシステムは、大学共同利用機関の国立情報学研究所(NII)が運営している目録所在情報サービス(NACSIS-CAT: CATaloging system)で、参加図書館が共同分担方式で作成した日本最大規模のオンラインデータベースを利用するものです。現在の図書館サービスの一つであり、本図書館で私が担当している業務でもあります。

例えば、卒業論文を書く時に読みたい論文があったけれど、本図書館ではその論文が載っている資料(雑誌、図書)を所蔵していない、ならどうするか。という時に活用していただきたいのがILLです。「図書館間相互貸借」の名の通りに、ILLシステムを通じて他の大学図書館等に依頼し、必要な論文をコピーしてもらったり、あるいは本そのものを貸し出ししてもらいます。

少し前であれば郵便や電話、FAXを使って時間をかけてやりとりしていた所を、現在はシステムが電子化されているので、オンラインですぐに申し込み・受付のやりとりが出来ます。送料は(複写の場合は複写料も)かかりますが、京都にいながらにして、北海道から沖縄まで全国のILL加入館から資料の取り寄せが可能です。CiNii(NII 学術情報ナビゲータ)の検索結果などを印刷してカウンターに持ってきていただければ、手続きもスムーズに進みます。

また、「相互」ですから、こちらから依頼するだけではなく、同じように他大学の図書館等から本館の資料を貸借してほしい、あるいは本学発行の紀要や所蔵している雑誌の論文を複写してほしい、という申し込みが来たりもします。実は、本館はこの「受付」の方がこちらから「依頼」す

るよりも多いのです。

言うまでもなく、本学は外国語大学ですので、外国語関係の本を多く所蔵しています。英語やフランス語、ドイツ語の書籍は所蔵している大学も少なくはないのですが、スペイン語やイタリア語、ポルトガル語になると、全国の僅かな大学しか所蔵しておらず、場合によっては本館のみの所蔵、ということも珍しくありません。

国内では他に見かけることのない外国語の本が、京都外国語大学附属図書館にはある。それは、本館が他大学の学生や研究者の方の学術研究を支援できるということです。このことは、外国語大学の図書館としての大きな強みでしょう。

他大学図書館からの依頼を受けると、データを確認して、雑誌や本を閲覧室・書庫から持ってきて貸出処理、または該当箇所をコピー。送料を正しく計算して処理し、梱包して依頼してきた図書館に発送。これが基本的な流れになります。当然ですが、間違いがあつては大変なことになりますから、確認は怠らないようにしています。特に複数巻構成の本の何巻目、または複数件の発送がある時の宛先を入れ間違えないようにというのは注意しています。コピーの場合は、読みにくいのか、ページが飛んでいないか等、原本と照らし合わせつつチェックします。

私がILL業務を行う上でいつも心がけているのは、迅速にかつ丁寧に、です。依頼者の方がいるわけですから、早く手元に届くことで喜んでいただけることを信じて作業を進めます。それで、次に依頼する時に検索したら他の大学でもこの資料は所蔵しているけど、ここは京都外大図書館に頼もう、と選んでもらえたら、それだけ本学図書館の価値が認められた、ということになるのではないのでしょうか。

ILLという他大学とのやりとりは、緊張感がありますが、その分やり甲斐に繋がる業務です。それを通して、本学に所属する人たちだけではなく、他大学の図書館からも京都外国語大学の図書館へいただける評価の一助になることが出来れば、幸いだと思えます。

とだ なおこ(非常勤職員)